

細部に洋風意匠を配した和洋折衷様式造りであり
現存する数少ない大日本報徳社支社社屋

国登録有形文化財 旧大倉沢報徳館

(平成30年3月27日 国登録)

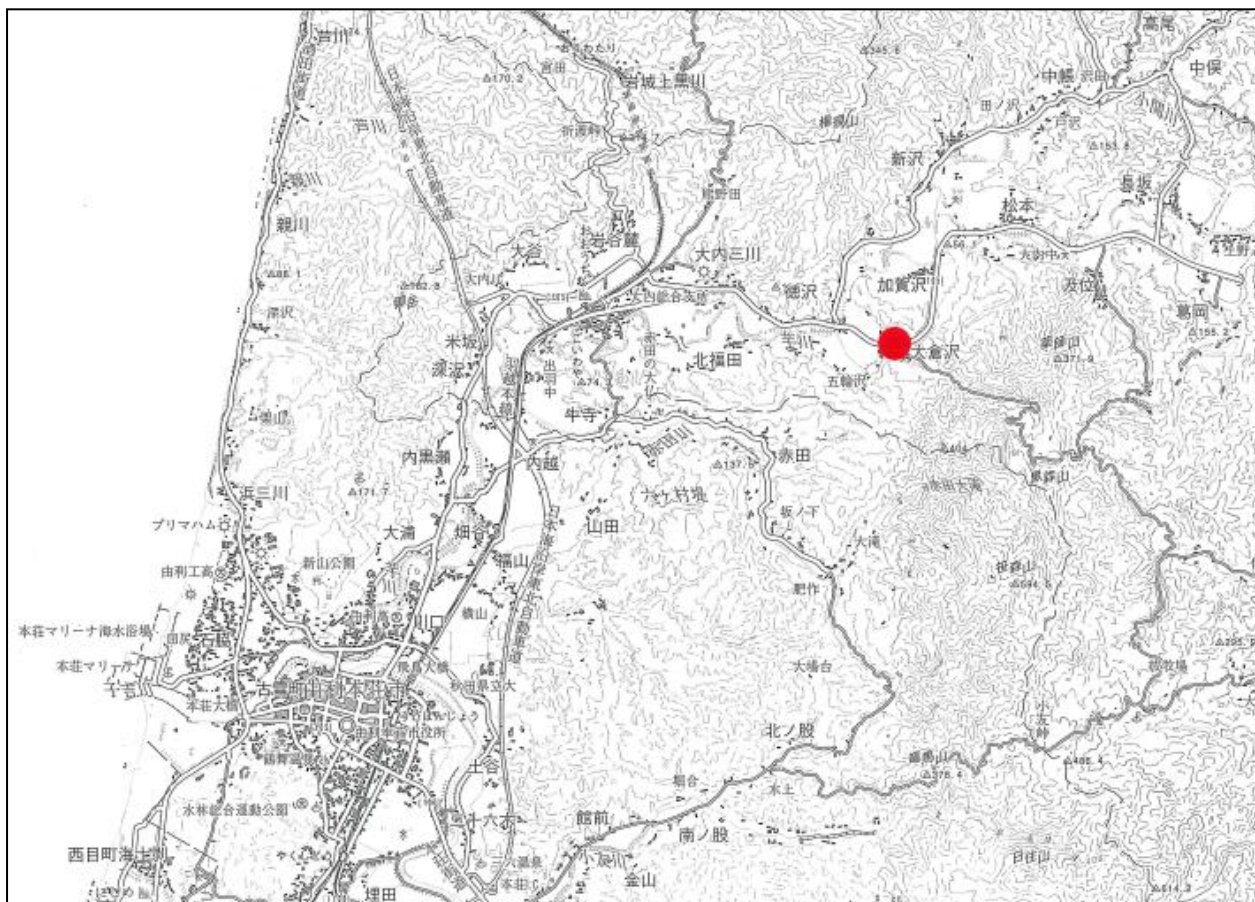
- 名 称
- 所 在 地
- 構造・形式
- 建 築 年 代

きゅうおおくらざわほうとくかん
旧大倉沢報徳館

秋田県由利本荘市大倉沢字大沢16番2

木造平屋建 寄棟造 棧瓦葺 登録対象建築面積:212 m²

昭和5(1930)年頃



旧大倉沢報徳館位置図

●旧大倉沢報徳館の概要

旧大倉沢報徳館は、秋田県由利本荘市大内地域、国道105号沿いの大倉沢字大沢地内に所在します。本建造物は、大日本報徳社※(本社：静岡県掛川市)の支社のひとつとして、大正元年(1912)に由利郡岩谷村大倉沢の正木七蔵が設立した「大倉沢報徳社」の社屋として建築されたものです。

※二宮尊徳の唱えた報徳運動に応じ、疲弊する農村の救済を目的として幕末から大正にかけて全国で結社された組織

同社は、大正12年(1923)に大日本報徳社より入社許可を受けており、秋田県内では明治41年に入社許可を受けた北秋田郡鷹巣町の鷹巣社に次いで2件目の支社でした。また、同社には「報徳文庫」として大日本報徳社発行の機関誌『報徳の友』(以後『大日本報徳』、『報徳』と名称変更)

等が保管されており、最も古いものは大正 11 年 4 月号（第 239 号）です。機関誌掲載の戦前までの同社に関する主な記事は、大正 11 年の創立 10 周年式典報告、昭和 2 年の大日本報徳社図書館落成式に伴う祝電送付記事、昭和 5 年・昭和 11 年の本社理事による定期巡回視察報告等があります。

平成 22 年（2010）には設立準備期間を含め創立 100 年記念式典が開催されましたが、これを節目に当初の目的が達成されたとして、平成 24 年に大倉沢報徳社は解散しました。県内における報徳社は、昭和 2 年に入社許可された平鹿郡大森町本郷報徳社、昭和 4 年の由利郡直根村の中直根報徳社、昭和 7 年の由利郡笹子村の福島報徳社、昭和 14 年の河辺郡下北手村の谷崎報徳社、寒川報徳社等、昭和 30 年代までに増減を経て 10 社ありましたが、平成まで継続したのは、この大倉沢報徳社のみです。

本建造物は、社屋としての利用のほか、図書館、農繁期の託児所、結婚式・葬儀会場等、地域の福利厚生施設の機能をもつ施設としても利用されてきました。大倉沢報徳社解散後の現在は、大倉沢町内会館「大倉沢報徳館」として利用されています。



旧大倉沢報徳館正面外観

●建造物の状況

○全体の概要

主屋は木造平屋建、礎石建の建築で、外観は南京下見板張り、硝子窓、窓上端はモルタル搔落しです。建物外壁は茶系色塗装とする一方、玄関ポーチ、正面外壁腰部、硝子窓の庇及び窓枠は明緑灰色ペンキ塗装とし、窓枠下部及び外壁腰部の庇は明青灰色ペンキ塗装として、正面を意識したモダンな雰囲気を出しています。主屋平面は、玄関奥の廊下を矩折れに延ばし、西側は 8 畳の応接室、東側は倉庫、12 畳の小会議所、廊下北側に 42 畳の大広間を配する構造です。建物内部については、廊下天井高が 3.122m、壁は全て漆喰塗とし、桁行方向の竿縁天井となっています。

また、建物内部の工事記録では昭和 21 年（1946）に東口を新築し、その後は水屋等の改修が見られるものの、平成 15 年に当時の外観・内観はそのままだに修復が行われ、外壁の再塗装及び内部の柱・天井・建具は漆塗風に塗装されています。



正面外壁



玄関ポーチ上部装飾

○玄関ポーチ

正面西側に位置する平入りの玄関ポーチは、切妻造、棧瓦葺とし、コンクリートの叩きに 2 段の木製階段が付いています。逆蓮柱や実肘木、木鼻装飾の組み合わせと洋式の装飾を付した擬洋風の形式です。

○応接室

応接室は主屋西側に位置しており、主屋西側廊下側に縦額入り障子戸、東側廊下側及び大広間側に襖戸の出入り口を設け、室内には床窓を設けた床の間、押入が付きます。また、大広間側の欄間は竹を装飾した壁抜き欄間にしており、西側廊下側の欄間には建築当時のままの花模様の磨り硝子戸が残っています。



応接室

○小会議所及び倉庫

主屋東側廊下に面した小会議所及び倉庫は、廊下側の壁の下部から腰部を縦板張り、上部は倉庫側を磨り硝子窓、小会議所を硝子窓としており、出入り口も各々の壁の造りと同様に縦板張りの腰高の硝子戸となっています。加えて、建物正面側も硝子窓で、これら2間は採光を意識した開放的な造りです。硝子は一部交換が見られるものの、特に廊下側は建築当時のままに遺されています。倉庫には正面出入り口の他、玄関側廊下及び小会議所との間に腰高硝子戸の出入り口が設けられ、玄関側廊下から倉庫を通じて小会議所まで直接つながった造りです。なお、倉庫の床は、現在はフローリングに改修されていますが、当初は畳敷であった痕跡がみられます。



小会議所

○大広間

主屋東側に位置しており、襖によって西側27畳、東側15畳の座敷2間に仕切られる造りです。西壁中央には、柿材の床柱を有する床の間を設けられ、その左右を床脇としています。さらに、左右の床脇壁には角切窓、自然木を装飾した円窓を設ける他、左側床脇は天袋及び違い棚、右側床脇は地袋及び床脇窓としています。また、東側の15畳の座敷にも北壁に床の間及び押入れが付く造りです。



大広間

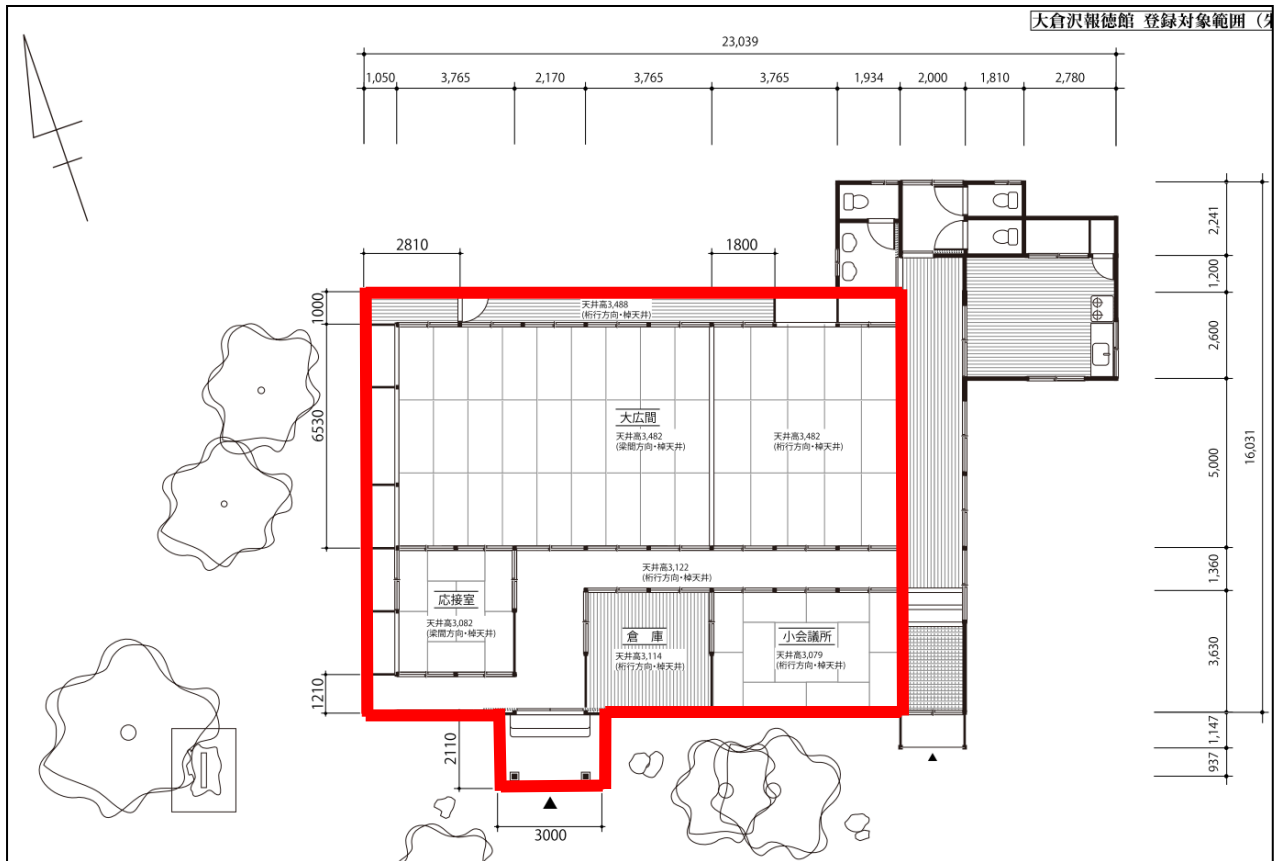
大広間廊下側の柱間は、西側座敷は襖戸、東側座敷は縦額入り障子戸とし、大広間を2間に仕切った際の各座敷の内観を意識した造りとなっています。それでも、大広間縁側及び東側座敷の厨房等に続く東側廊下側は縦額入り障子戸として、欄間も硝子戸とする等、採光を取り入れる造りです。

○まとめ

昭和5年(1930)頃に建築された大倉沢報徳館は、現在、大日本報徳社の支社として県内で唯一現存する建造物であると同時に、基礎部、外観、内観等、建築当時のまま大切にされてきた非常に貴重な建築物です。和洋折衷様式のモダンな外観と、内部も座敷の建具に硝子戸を多用する等、採光

を意識した造りであり、社屋でありながら地域の施設として開放的な利用を窺える建造物でもあります。二宮尊徳の唱えた報徳運動の東北における運動展開を考えるうえでも、非常に貴重な建造物だといえます。

由利本荘市教育委員会
 建造物調査者：秋田公立美術大学 教授 工学博士 澤田 享



旧大倉沢報徳館平面図 (赤線登録対象範囲)